

SOTEC

騒音振動表示観測装置 SVD-210

騒音振動データ収録装置 SVD-220

メモリーカードデータ読み取りソフト

(アプリケーション名: SOTEC)

Ver1.08

取扱説明書

——レンタル品——

ご使用後、ご返却ください。

株式会社 **ソーテック**

TEL 06-6396-2327 FAX 06-6396-5476

目 次

1. 概要	1
1. 1 ソフトウェアの概要	1
1. 2 動作環境	1
1. 3 インストール及び起動方法	1
2. 使用方法	2
2. 1 瞬時値データの読み込み	2
2. 2 測定結果の印刷及びファイルへの出力	3
1) 測定結果の印刷	4
2) 測定結果のファイル出力	7
2. 3 統計値結果(Lx)の読み込み	8
2. 4 レベル波形表示と異常値除外作業	9
1) レベル波形表示	9
2) レベル波形画面の操作	10
3) 測定結果(Lx)の再計算	11
3. その他	13
3. 1 メモリーカード上の瞬時値データファイルの保存について	13
3. 2 瞬時値データファイルの形式について	13
1) ファイル形式	13
2) ブロックについて	14
3. 3 測定結果の演算方法について	16
3. 4 制限事項	16
4. 本ソフトウェアのトラブルについて	17

本文中に記載された製品名は、各社の登録商標です。本ソフトウェアはMicrosoft VisualBasic 6.0を用いて作成されています。

1. 概要

1. 1 ソフトウェアの概要

本ソフトウェア (SOTEC) は、SVD-210 及び SVD-220 によりメモリーカードに記録したデータを読み取り、測定結果を日報として表及びグラフ形式で印刷出力するソフトウェアです。また、測定結果をテキストファイルの形式で保存することが出来ます。

1. 2 動作環境

本ソフトウェアの動作環境は以下のとおりです。

表-1 動作環境

コンピュータ	MicorsoftWindows98/Me/NT4/2000/XP が 動 作 し メ モ リ ー カ ー ド (CompactFlash™) のデータが読み取り可能なパソコン。
OS	MicorsoftWindows98/Me/NT4/2000/XP (全て日本語版のみ)*1
プリンタ	カラープリンタを推奨。用紙は A4 のみ。

1. 3 インストール及び起動方法

ソフトウェアのインストールは、インストール CD に含まれる Setup.exe をダブルクリックします。

ソフトウェア (SOTEC) の実行は、「スタート」→「プログラム」から「SOTEC」をクリックして起動して下さい*2。

*1 MicrosoftWindows95 では正常に動作しない可能性があります。

*2 メモリーカードからデータを読み込む場合、必ずメモリーカードをノートパソコンに指してドライブとして認識されてから以後に本ソフトウェア (SOTEC) を起動して下さい。起動後にメモリーカードを挿入するとソフトウェアが動かなくなる場合があります。また、本ソフトウェア (SOTEC) 動作中はメモリーカードの抜き差しを行うなど、ドライブの構成が変わるような操作を行わないで下さい。

2. 使用方法

ソフトウェアを起動すると以下の画面になります。

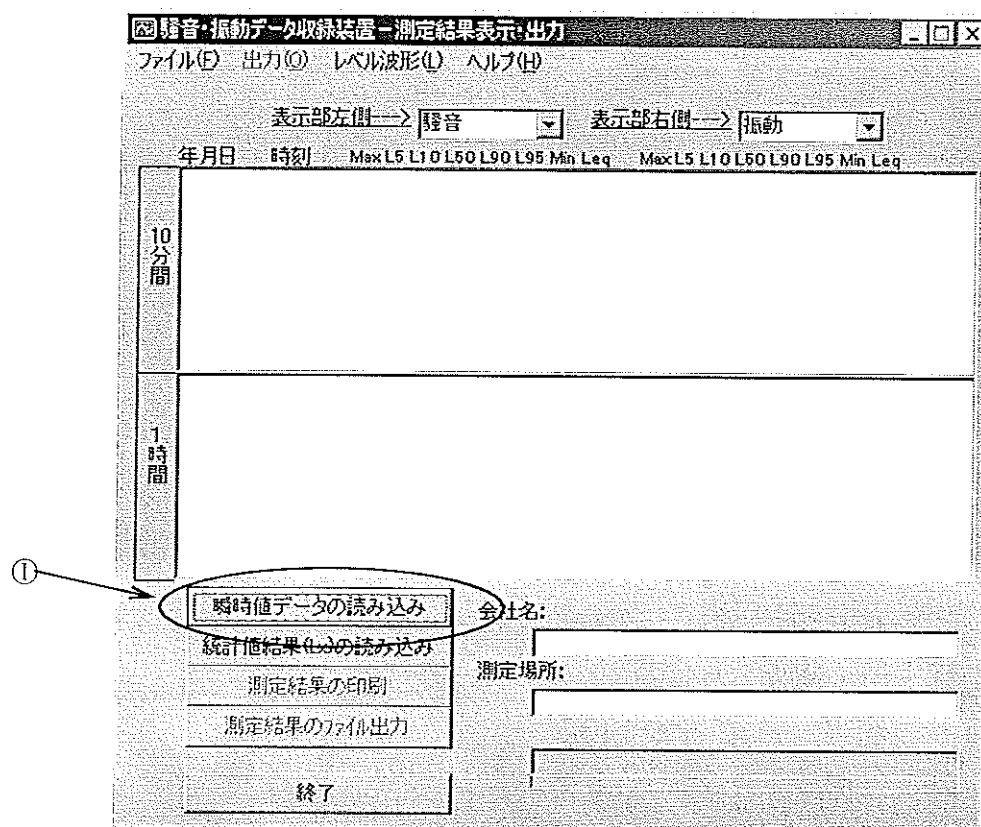


図-1 起動時の画面

2. 1 瞬時値データ読み込み

まず最初にメモリーカードで得られた瞬時値データを読み込む必要があります。図-1の①のボタンを押せば、ドライブを指定するウィンドウが現れますので、瞬時値データのファイルがあるドライブ及びフォルダを選択して「読み込み開始」のボタンを押して測定データを読み込んで下さい。

なお、メモリーカードの瞬時値データファイルをハードディスクなどに保存した場合であっても、その保存した場所と保存したときのデータファイルの名前を指定すれば同様に読み込むことができます。

注) 測定した時間の長さによって、使用しているパソコンにもよりますが、測定データの読み取りにかなり時間がかかることがあります。(例：CPUがPentium II 300MHzでメモリーが64Mbyteのパソコン上で、約5日分のデータを処理した場合で処理時間は約8分です。)

測定結果をファイル出力(※「2. 2 測定結果の印刷及びファイルへの出力」参照)している場合には、再度カードからのデータ読み込みを行わなくても高速に処理できます。(「2. 3 統計値結果(Lx)の読み込み」参照)

2. 2 測定結果の印刷及びファイルへの出力

メモリーカードからのデータ読み込みが終了すると以下の画面になります。

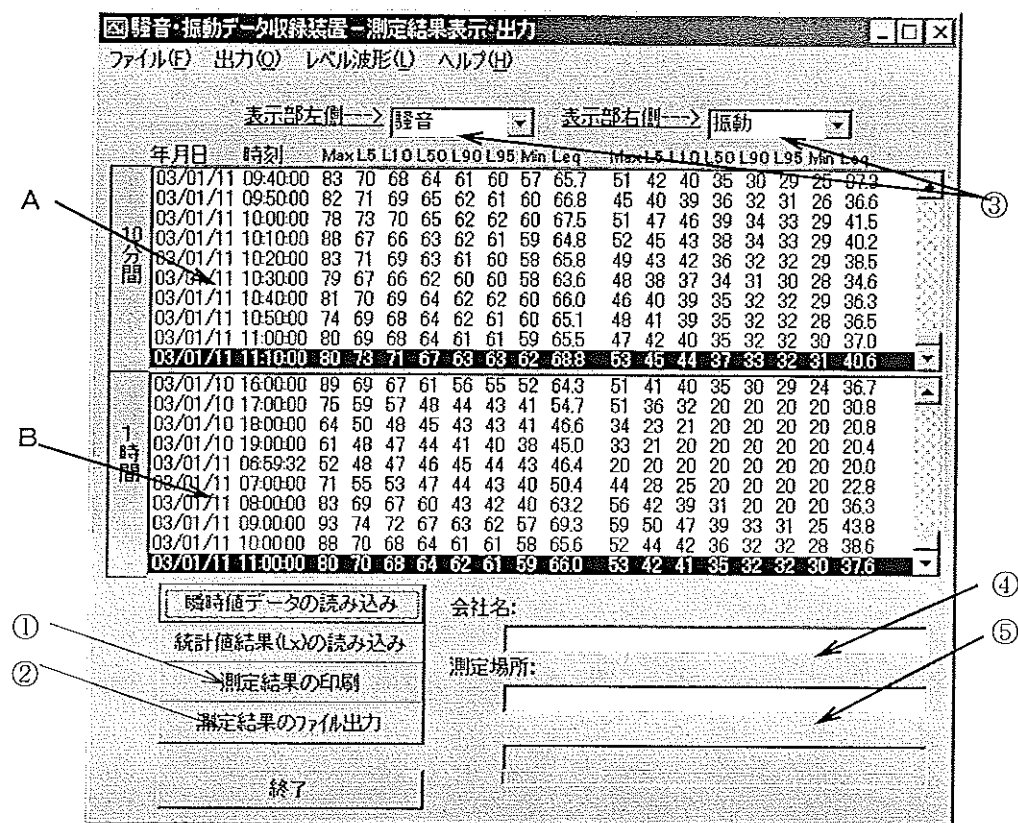


図-2 メモリーカードのデータ読み込み終了時の画面

図-2のA及びBのウィンドウ内には測定結果(測定値の演算結果)が表示されます。

図-2の①を押すと測定結果の印刷(「1)測定結果の印刷」参照)、②を押すと測定結果のファイルへの出力(「2)測定結果のファイル出力」参照)になります。

③は騒音・振動データ収録装置(SVD-xxx)の表示部が表す騒音や振動などの測定の種類や地点の位置等を示し、一覧から選択するか、または任意に入力できます。

④及び⑤は、印刷する表やグラフに記載される会社名と測定場所を示し、任意に入力して下さい(入力しなくても構いません)。

1) 測定結果の印刷

図-2 の①「測定結果の印刷」を押すと以下のような画面が表示されます。印刷したいものを適宜指定して「印刷実行」ボタンを押すと、測定結果がプリンタで印刷されます。

「グラフの設定」ボタンを押すと、グラフに表示する値(Lx)の選択が出来ます。

「プレビュー」ボタンを押すと、印刷イメージを簡単に画面で確認できます。

印刷

印刷種類の指定

☐ 表のみ

☐ グラフのみ

☒ 表+グラフ **グラフの設定**

集計種類

☐ 10分間値のみ

☐ 1時間値のみ

☒ 10分間値+1時間値

☐ データ数が規定に満たない場合は、表の欄外に%表示をする

印刷実行 キャンセル プレビュー

データ数が規定(10分間値なら 6000 個、1時間値なら 36000 個)に満たない場合に表の欄外に%表示をしてデータ数が少ないことを表示しておきたい場合にはここにチェックを入れます。

図-3 (1) 測定結果の印刷画面

注) 印刷時のプリンタの設定は本ソフトウェアでは行えませんので、プリンタの設定を行う場合は「スタート」→「設定」→「プリンタ」から設定を行って下さい。

「グラフの設定」ボタンを押すと表示される画面]

グラフに表示する値の設定

グラフに表示する値にチェックを付けて下さい

騒音		振動	
☒ Lmax	☐ L90	☒ Lmax	☒ L90
☒ L15	☐ L95	☐ L15	☐ L95
☐ L10	☒ Lmin	☒ L10	☒ Lmin
☒ L50	☒ Leq	☒ L50	☐ Leq
☒ 基準値線を引く レベル 85 dB		☒ 基準値線を引く レベル 75 dB	

OK

図-3 (2) グラフに表示する値の設定画面

図-3(2)のグラフに表示する値の設定画面では、グラフに表示する値の種類に加え、グラフ上に基準値の線を引くための欄があります。グラフ上に基準値の線を引かせたい場合は「基準値線を引く」のチェックボックスにチェックマークを付け、その下のレベル欄に基準値としたい値を入力します。

【参考】

本ソフトウェアでは印刷は指定された全ページを印刷しますが、出力はプリンタデバイスに1ページ毎に出力しているため、特定のページだけを印刷したい場合は、

- ①プレビュー画面で事前に印刷したいページ数を数えておき、
- ②プリンタを最初に一旦停止して印刷を実行し、
- ③ソフトウェア上で印刷が終わった後、
- ④プリンタウィンドウなどで印刷したいものだけを残して後は全て削除してから、
- ⑤プリンタで印刷を開始する、

といった方法があります。詳しくは、プリンタのマニュアルや Windows のヘルプなどを参照して下さい。

[印刷例：表(10 分間値の日報の場合)]

騒音・振動データ収録装置 10分間値 日報データ

測定年：2003年

測定場所：

会社名：

Page=1/2

測定日時	騒音								振動							
	L _{max}	L ₅	L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀	L ₉₅	L _{min}	L _{eq}	L _{max}	L ₅	L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀	L ₉₅	L _{min}	L _{eq}
01:00																
06:59 ~60	49	48	48	47	45	45	45	46.8	21	20	20	20	20	20	20	20.0
07:00 ~10	59	53	51	48	45	44	42	48.9	32	24	22	20	20	20	20	21.1
~20	62	53	51	48	45	44	41	48.7	34	25	22	20	20	20	20	21.6
~30	66	55	54	50	47	46	45	51.1	42	26	24	20	20	20	20	23.1
~40	67	54	53	49	47	46	44	50.4	34	26	25	21	20	20	20	22.6
~50	63	55	53	48	46	45	45	50.2	32	25	23	20	20	20	20	21.4
~60	66	56	54	48	46	45	44	54.8	36	27	25	21	20	20	20	23.1
08:00 ~10	61	52	50	43	41	40	38	46.8	29	21	20	20	20	20	20	20.2
~20	65	55	54	48	44	43	41	50.3	34	27	25	21	20	20	20	23.0
~30	79	68	65	57	52	51	49	61.6	45	40	38	32	26	25	22	34.5
~40	84	77	74	66	56	53	50	70.3	61	52	50	43	32	28	24	46.4
~50	83	75	73	65	60	58	55	68.9	62	52	50	40	33	31	25	46.2
~60	81	68	65	60	57	56	53	62.8	44	40	38	32	28	27	24	34.3
09:00 ~10	82	71	69	63	58	57	54	65.8	47	40	39	35	30	30	25	36.1
~20	80	71	70	63	60	59	57	66.1	49	42	41	36	32	31	28	37.7
~30	78	69	67	63	60	59	57	61.6	52	40	39	35	32	30	25	36.6
~40	79	70	69	63	60	59	58	65.1	53	40	38	34	31	30	25	36.6
~50	83	73	72	65	62	60	58	67.8	63	55	52	38	33	31	28	48.0
~60	81	73	72	67	62	61	59	68.6	53	42	40	34	30	30	27	37.9
10:00 ~10	78	70	68	63	60	59	57	65.4	47	41	40	34	30	29	26	36.4
~20	84	73	71	66	60	59	58	68.3	50	37	36	33	29	28	26	34.0
~30	77	73	71	63	59	59	57	67.2	51	39	38	33	28	28	26	34.0
~40	83	71	68	63	60	60	57	65.5	53	40	38	34	30	30	26	36.4
~50	76	69	67	62	60	59	56	64.0	52	40	38	34	31	30	27	36.1
~60	79	69	67	62	59	59	56	64.1	46	40	38	34	30	29	26	35.6
11:00 ~10	83	70	68	62	59	58	55	64.7	56	41	39	34	30	29	26	36.8
~20	77	71	69	63	60	59	57	65.4	52	41	40	36	32	31	27	37.1
~30	74	70	69	63	60	60	58	65.3	50	45	43	36	32	31	27	38.9
~40	86	69	67	63	61	60	59	65.7	53	43	41	37	34	33	28	39.1
~50	80	75	74	66	63	62	58	69.5	63	55	53	45	36	34	28	49.0
~60	78	69	66	63	48	47	45	61.6	57	39	37	29	24	23	20	36.0
12:00 ~10	73	62	58	47	43	42	40	56.5	36	29	27	21	20	20	20	23.8
~20	73	58	54	46	42	42	40	54.4	34	27	24	20	20	20	20	22.2
~30	70	50	53	45	41	41	39	50.0	35	26	24	21	20	20	20	22.5
~40	72	51	49	46	42	42	40	47.6	34	26	25	21	20	20	20	22.5
~50	60	48	46	43	41	41	40	44.1	32	25	24	21	20	20	20	22.0
~60	71	65	63	45	41	40	39	49.8	35	28	27	22	20	20	20	24.0
13:00 ~10	76	71	69	60	54	51	48	64.4	49	32	30	31	26	25	22	35.2
~20	78	69	66	59	57	56	52	62.8	44	35	34	30	27	26	24	34.4
~30	76	70	68	62	60	59	56	63.7	44	37	36	32	29	28	23	33.2
~40	77	73	72	67	63	62	60	68.5	45	41	40	33	30	29	25	35.9
~50	78	73	72	68	64	63	61	69.3	51	44	43	35	30	29	27	38.6
~60	78	73	72	68	65	64	61	69.1	53	39	38	35	31	29	27	36.0
14:00 ~10	79	72	71	67	64	64	62	68.2	46	40	39	35	31	31	28	36.4
~20	84	74	73	69	65	64	62	70.1	43	39	38	34	31	30	27	35.4
~30	96	76	72	65	62	61	58	69.4	43	38	36	32	28	28	25	33.6
~40	86	70	69	65	62	62	59	66.8	54	36	35	31	29	28	25	33.5
~50	91	70	69	64	59	58	56	66.9	52	42	38	33	28	27	23	36.5
~60	90	72	69	64	60	59	56	68.3	60	48	44	33	28	26	23	41.9
15:00 ~10	90	75	71	64	60	59	57	70.6	48	42	40	30	27	26	24	35.7
~20	89	75	73	64	57	57	55	69.0	55	37	35	28	24	24	21	33.9
~30	99	72	70	63	59	58	55	68.0	49	44	41	34	27	26	23	37.8
~40	88	72	70	63	60	59	57	67.2	46	41	40	35	31	30	27	36.7
~50	83	72	70	62	58	58	56	66.1	53	42	39	33	31	30	27	36.6
~60	86	71	69	63	59	58	56	66.0	52	40	37	33	30	29	26	35.5
16:00 ~10	81	70	68	61	57	56	54	64.5	51	40	37	32	29	28	24	35.9
~20	90	70	69	66	55	54	49	65.1	48	38	36	32	29	28	24	34.3
~30	89	71	69	66	62	61	58	67.7	47	36	35	32	30	29	26	33.1
~40	79	69	68	64	60	59	57	65.1	42	38	36	33	29	27	23	33.9
~50	81	73	68	62	58	57	56	65.5	37	34	33	29	27	26	24	30.1
~60	76	72	71	67	61	60	58	67.9	45	34	32	28	25	25	22	30.3
17:00 ~10	74	70	69	64	60	60	56	65.5	35	31	30	26	22	22	20	27.0
~20	77	71	69	62	54	53	51	65.3	38	31	29	24	21	21	20	26.1
~30	71	61	56	49	43	42	40	53.8	34	27	26	21	20	20	20	23.0
~40	67	54	52	45	42	41	39	49.9	44	27	24	20	20	20	20	23.9
~50	61	47	46	43	41	41	40	44.2	33	22	20	20	20	20	20	20.7
~60	57	50	48	42	40	40	38	45.0	24	20	20	20	20	20	20	20.0

注) 表欄外右側に()で数値が表示されている場合がありますが、これは当該時間帯の測定結果の演算データ数が測定単位時間のデータ数(10 分間値なら 6000 個、1 時間値なら 36000 個)に満たない場合のデータ数を表示しています。

[印刷例：表(10 分間値のグラフの場合)]

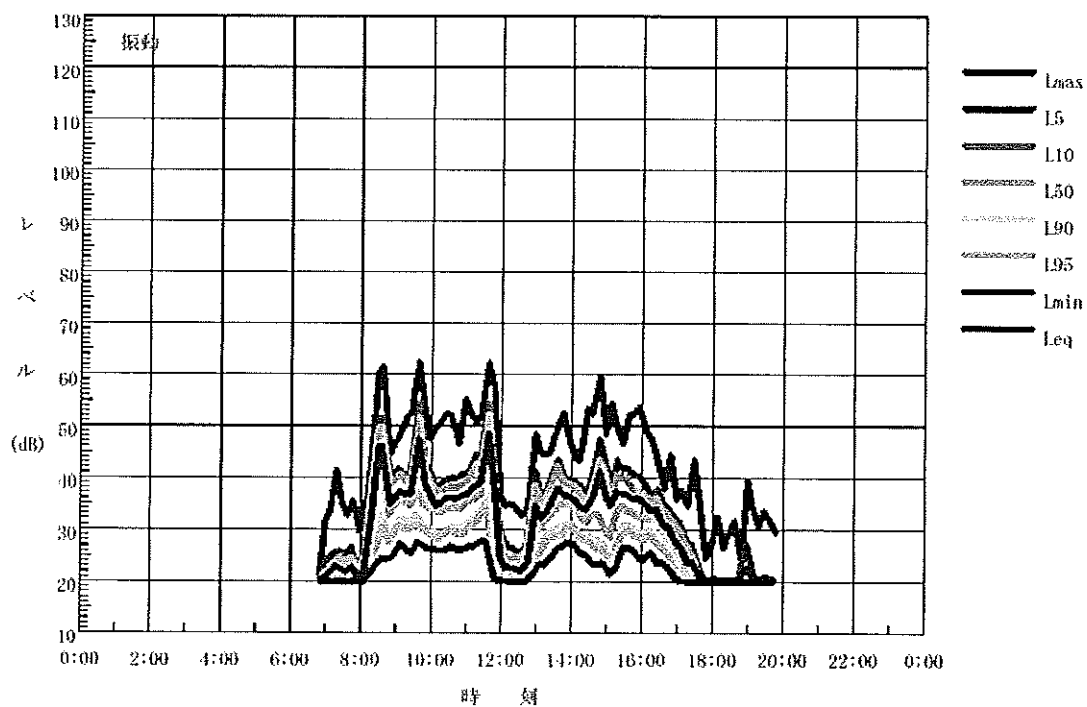
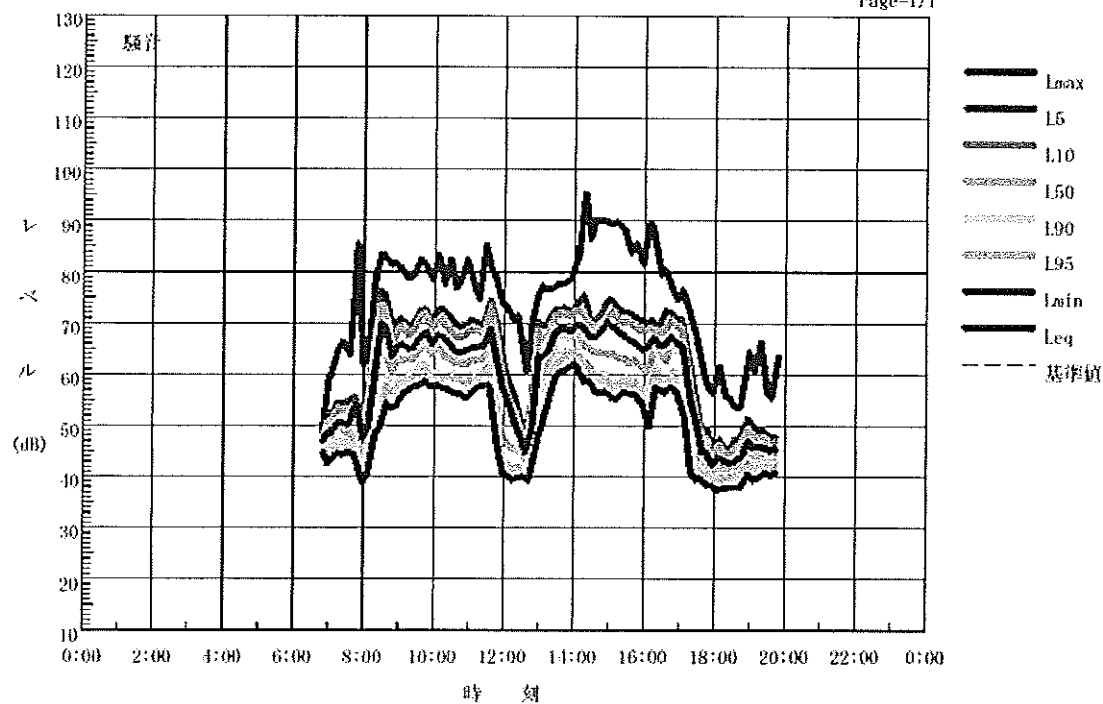
騒音・振動データ収録装置 10分間値 日報データ

測定年月日：2003年01月08日

測定場所：

会社名：

Page=1/1



2) 測定結果のファイル出力

図-2 の②「測定結果のファイル出力」を押すと、図-2 の画面のウィンドウ内(A,B)に表示されている測定結果をそのままの形でファイルに出力することができます。

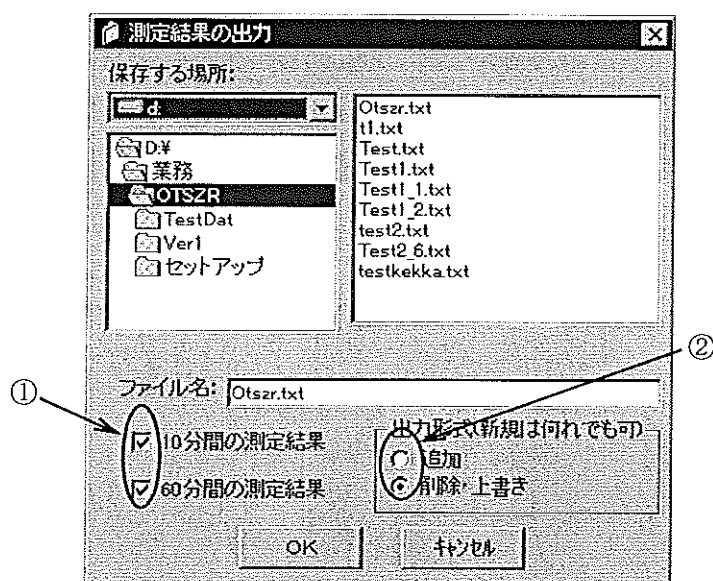


図-4 測定結果のファイル出力画面

保存する場所を選択し、ファイル名の入力欄に適当なファイル名を入力するか或いは一覧から選択して、OKを押すと測定結果がファイルに出力されます。

①で出力する測定結果の種類を選択、②で出力時の出力形式を指定します。なお、出力形式の指定で「削除・上書き」を選択すると、前回に保存した同じ名前のファイルの内容は削除されますので注意して下さい。

出力されるファイルの形式はテキストファイルなので、メモ帳などのテキストエディタやワープロ、表計算ソフト（Excel など）等で利用することが可能です。

表-2 「測定結果のファイル出力」で出力されたファイルの例

年月日	時刻	Max	L5	L10	L50	L90	L95	Min	Leq	Max	L5	L10	L50	L90	L95	Min	Leq	
00/04/01	11:02:23	68	58	57	56	54	53	51	55.9	48	38	37	36	34	33	31	35.9	10min
00/04/01	11:10:00	69	58	58	56	55	54	53	56.3	49	38	38	36	35	34	33	36.3	10min
00/04/01	11:20:00	72	58	57	55	52	52	50	55.5	52	38	37	35	32	32	30	35.5	10min
00/04/01	11:30:00	66	58	57	55	53	52	49	55.7	46	38	37	35	33	32	29	35.7	10min
00/04/01	11:40:00	65	56	55	52	51	50	49	52.6	45	36	35	32	31	30	29	32.6	10min
00/04/01	11:50:00	70	56	55	53	52	52	51	54.1	50	36	35	33	32	32	31	34.1	10min
00/04/01	12:00:00	68	57	56	54	53	53	51	54.9	48	37	36	34	33	33	31	34.9	10min
00/04/01	12:10:00	65	57	57	55	54	54	52	55.6	45	37	37	35	34	34	32	35.6	10min
00/04/01	12:20:00	65	55	55	53	52	52	50	53.5	45	35	35	33	32	32	30	33.5	10min
00/04/01	12:30:00	68	56	56	53	52	51	50	54.1	48	36	36	33	32	31	30	34.1	10min
00/04/01	12:40:00	65	58	57	56	55	54	53	56.0	45	38	37	36	35	34	33	36.0	10min
00/04/01	12:50:00	73	57	56	54	52	52	51	55.9	53	37	36	34	32	32	31	35.9	10min
00/04/01	11:02:23	72	58	57	55	52	51	49	55.2	52	38	37	35	32	31	29	35.2	60min
00/04/01	12:00:00	73	57	56	54	52	52	50	55.1	53	37	36	34	32	32	30	35.1	60min

2. 3 統計値結果(Lx)の読み込み

本ソフトウェア(SOTEC)で「測定結果のファイル出力」を行って作成した測定結果のファイルが保存されていると、その測定結果のファイルから測定結果を直接読み込むことが出来ます。

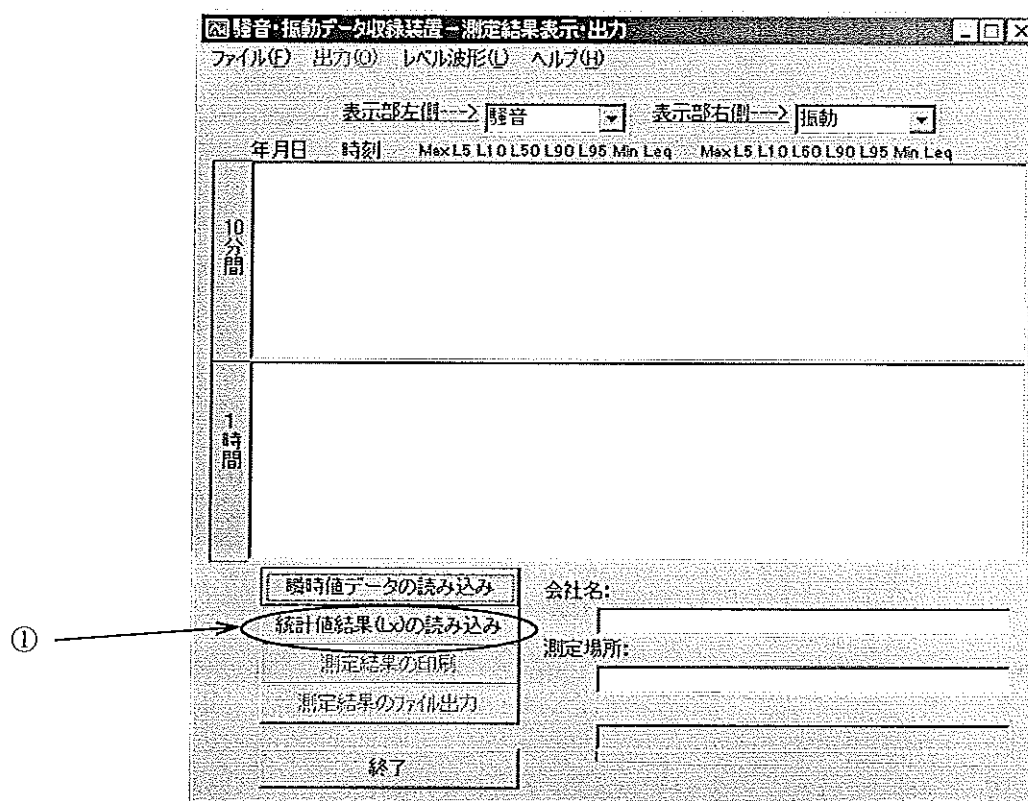


図-8 統計値結果(Lx)の読み込み画面

測定結果のファイルから測定結果を直接読み込むには、図-8 の①のボタンを押して表示されたウィンドウ上から読み込むファイルを選択して読み込んで下さい(通常は直前に保存されたフォルダ及びファイルが表示されています)。

これにより、何度も同じメモリーカードのデータファイルから読み込み処理を行う必要がなく、メモリーカードのデータファイルから読み込む場合よりも遙かに高速に読み込み処理を行えます。

2. 4 レベル波形表示と異常値除外作業

本ソフトウェアでは、レベル波形の表示と、その表示ウィンドウ内で異常値の範囲を指定し、その範囲を除外して測定結果を再計算させることが出来ます。

但し、この機能が使えるのは、カードデータファイル(SVD-xxx で記録した測定値ファイル)を読み込んだときだけです。

1) レベル波形表示

①カードデータの読み取り後、測定結果のリストからレベル波形表示を行いたいデータを指定して(リスト上で左クリックして反転表示させる)、右クリックし、表示されたポップアップメニューの「波形表示」を選択します。

ここから「波形表示」を選択することも出来ます。

リスト上で右クリックして、「波形表示」を選択

瞬時値データの読み込み

統計値結果(x)の読み込み

測定結果の印刷

測定結果のファイル出力

終了

会社名:

測定場所:

図-9 レベル波形表示の方法

②以下のようなレベル波形表示ウィンドウが表示されます。

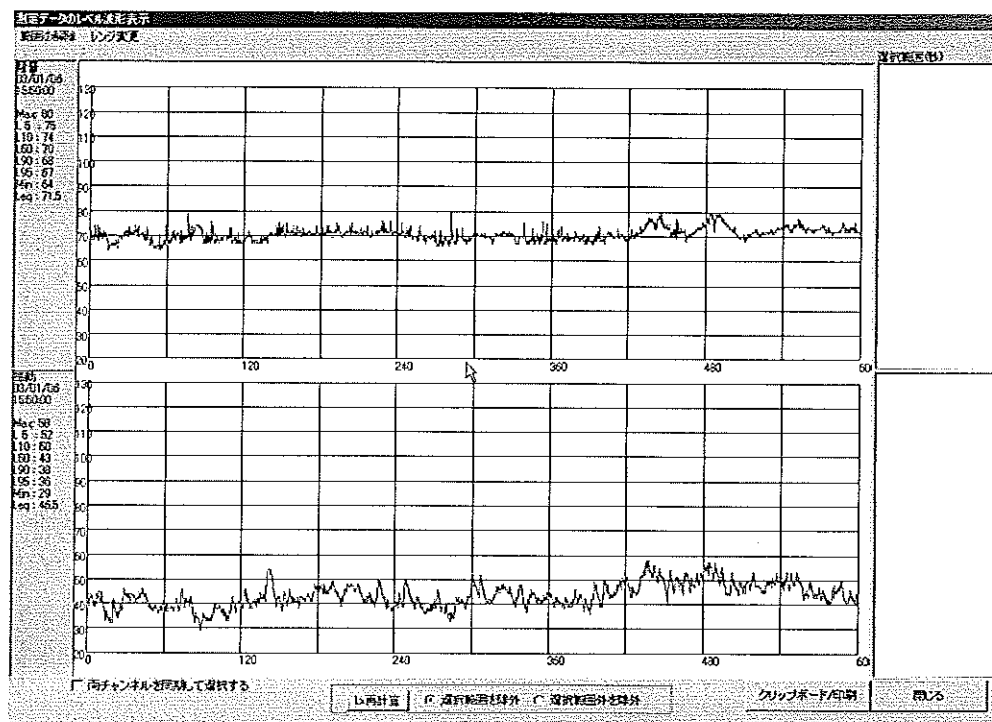


図-10 レベル波形の表示画面

2) レベル波形画面の操作

①表示レンジ設定

メニュー(画面左上)の「レンジ変更」をクリックすると、波形枠のレベルレンジ表示を変更できます。

②レベル波形のコピー／印刷

画面右下の「クリップボード／印刷」ボタンをクリックすると、レベル波形表示グラフィックをクリップボードへ転送したり、プリンタで直接印刷出力することが出来ます。

③異常値の除外作業

異常値の除外作業は、表示された騒音または振動のレベル波形上で、先ず、除外したい部分の開始点を左クリック、マウスの左ボタンを押したままマウスポインタを右（または左）方向へ移動し、除外したい部分全てに網掛けが指定されたら左ボタンを離して、除外範囲を確定します。(図-11 参照)

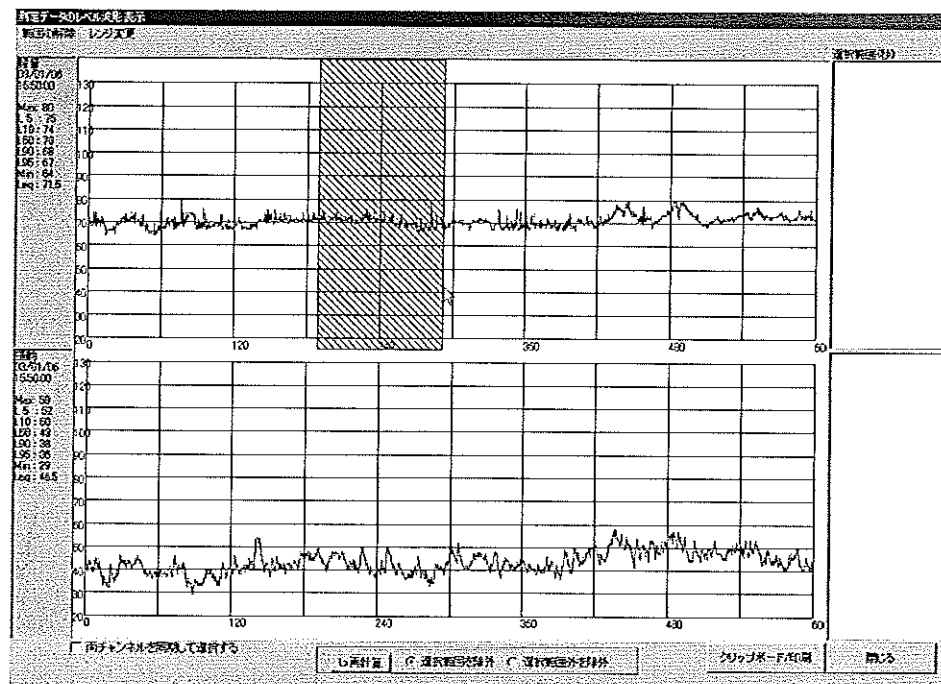


図-11 レベル波形の範囲指定

複数の除外範囲を指定したい場合は、チャンネル毎(画面の上下毎)に 300 箇所までなら何箇所でも指定できます。

指定範囲をやり直したい場合は、指定をやり直したい範囲の網掛け上で右クリックし「範囲指定の解除」を選択します。

画面左下の「両チャンネルを同期して選択する」のチェックボックスにマークを付けると上下で同じ範囲を選択できます。

3) 測定結果(Lx)の再計算

除外範囲指定が終わったら、ウィンドウ下の「Lx 再計算」ボタンを押して、除外範囲を除いた部分での測定結果である Lx を計算させます。Lx 再計算ボタンを押すと、ウィンドウ左側欄の Lx が更新され、また、メイン画面のリスト上の測定結果(Lx)も変更されます。この更新された測定結果は、テキストファイルとして出力する測定結果や印刷結果にも反映されます。

また、図-11 の画面で「Lx 再計算」ボタンの右側にあるスイッチを「選択範囲外を除外」とすると、選択範囲で Lx を再計算することもできます。

作業が終わったら、画面右下の「閉じる」ボタンを押します。このとき、指定範囲を保存するかどうかを決めるウィンドウが表示されますので、保存する場合は「はい」、しない場合は「いいえ」を選択します。保存した場合、次回同じファイルの同じ測定日・測定時刻のデータを波形表示させたときに、その保存した範囲が自動的に指定されます。但し、Lx の再計算はその都度「Lx 再計算」ボタンを押す必要があります。

異常音除外作業の注意事項

- 1) 10 分間値で行った指定範囲を 1 時間値にも使用する、または 1 時間値で行った指定範囲を 10 分間値にも使用するといったことは出来ません。10 分間値、1 時間値それぞれ別々に範囲指定を行う必要があります。
- 2) 除外範囲指定後に Lx 再計算を行うと、指定した範囲分だけ Lx 計算に使用したデータ数が少なくなります。例えば 10 分間値で 120 秒の除外範囲指定を行って Lx 再計算をすると、実質的には 8 分間値となります。従って、どうしても除外範囲指定を行った上で実測時間を 10 分間としたい場合などは、1 時間値上で除外範囲指定を行う必要があります。

- 3) 保存した指定範囲は、

- ・対象となるデータファイル(カードデータ)の名前
- ・測定開始日付・時刻

を元にしてファイル名としたデータベースファイルを作成して、SOTEC.exe のあるフォルダに保存されます。従って、同じデータファイルを別々のフォルダに保存しているような場合であっても、それぞれ保存した除外範囲指定に対しては同じファイルと見なしてしまいます。別々のフォルダに保存してあるデータファイルを除外範囲指定に対して別のものとして取り扱いたい場合は、その別々のフォルダに保存した同じデータファイルのファイル名を変更しておく必要があります。

3. その他

3. 1 メモリーカード上の瞬時値データファイルの保存について

本ソフトウェア(SOTEC)では、メモリーカードのデータをパソコンのハードディスク等に保存できません。メモリーカードのデータを保存する場合は、Windows のエクスプローラーなどを使用してファイルのコピーを行って下さい。

3. 2 瞬時値データファイルの形式について

1) ファイル形式

瞬時値データファイルの形式は以下のようになっています。

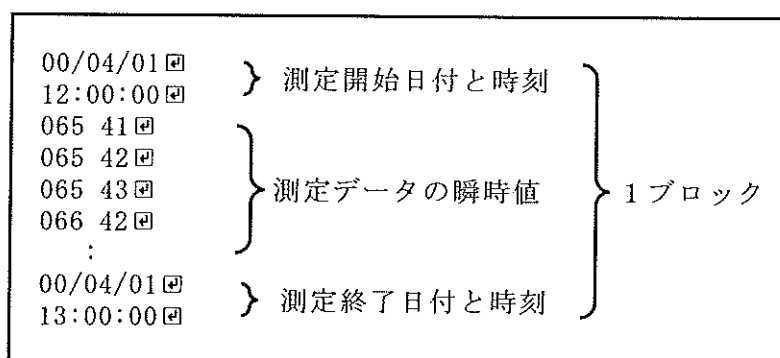


図-12 瞬時値データファイルのファイル形式

ファイルは、Windows や DOS 系で言われる通常のテキストファイルとは若干異なります^{*1}が、Windows のメモ帳(またはワードパッド)や Microsoft Word などのワープロソフトや Microsoft Excel などの表計算ソフトなどで読み込むことができます^{*2}。なお、ファイル名は騒音・振動データ収録装置 SVD-xxx で記録されるファイル名は tl.txt で固定されていますが、ハードディスクなどに保存する場合は別名で保存しても本ソフトウェアでは読み込めます。

*1 通常のテキストファイルは改行を表すコードが CR+LF であるのに対し、LF のみになっています。メモリーカードのデータファイルをワードパッドなどで変更を加えた後に保存すると、改行コードが CR+LF に変更されますが、本ソフトウェアはこの場合でも変更後のファイルを読み込むことができます。

*2 100msec 毎に測定値が記録されているのでファイルサイズが大きく、ワープロや表計算ソフトでは読み込みが難しい場合があるため、それらソフトで瞬時値データファイルを読み込むことはお奨めできません。

2) ブロックについて

瞬時値データファイルに記録された測定データが、複数回の繰り返し測定となっている場合は、上で示した形式の測定終了時刻の後に改行が3つ付け加えられた後に、上の形式が繰り返して記録されています。本ソフトウェアでは処理の都合上、数回の繰り返し測定のうち一回分をブロックと呼びます。例えば3回の繰り返し測定を行うと3ブロックがあるということになります。

```
00/04/01
12:00:00
065 41
065 42
065 43
066 42
:
00/04/01
13:00:00
  

00/04/01
14:10:00
073 39
:
00/04/01
15:23:12
  

00/04/03
18:11:01
059 34
:
00/04/03
22:12:00
  


```

図-13 瞬時値データファイルに複数ブロックが記録されている例

こうした処理の都合上、例えば 10:00 ～ 10:30 の間に測定を行った後、一旦停止して、11:00 ～ 11:30 に測定を行ったような場合、これを二つのブロックに分けて処理を行うため、日報表及びグラフはそれぞれ別の頁に印刷出力されることになります。

また、このブロック処理は統計値結果(Lx)のファイルから読み込む場合も同様です。この場合は、10 分間データなら時刻が 10 分毎、60 分間データなら 60 分毎に連続していることが1つのブロックを示すことになります。

なお、測定記録中に停電などで記録の寸断があると、記録が再開された時の寸断直後に測定開始日時が記録されるため、寸断の前後でブロックが分けられることになります。

但し、次に示す場合にはブロック分けされません。